

次世代音声展示支援システム



検知リーダーと無線タグ

国立科学博物館のお取り組み
(実証実験)

上野本館地下2階
地球環境の変動と生物の進化ゾーンにて



ActiveTAG コイン電池を内蔵



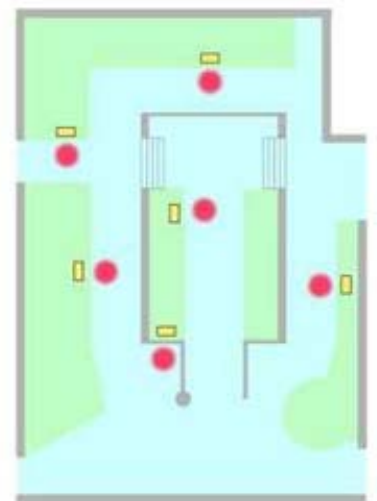
平面アンテナ背後に見える足の骨はマンモスのものです



センシングには、この目的に合わせて設計した、平面アンテナが使用されました
(左写真：別形状例)

検知所利の長い、アクティブタグだからこそ出来るバリアフリーなシステムです

センシングアンテナと
立ち位置の関係
黄色の四角：アンテナ位置
赤丸：設定した立ち位置



会場レイアウト

「SoundSpot: 新しい音声ガイドを体験してみよう」という次世代音声展示支援システムの実験が、上野にある国立科学博物館 地下2階 地球環境の変動と生物の進化ゾーンで、2007年2月20日から25日までの期間限定で行われました(国立情報学研究所 佐藤一郎教授主導)。

タグが入った帽子をかぶった方が、立ち位置に立つと、その方にあった説明が音声で流されるというものです。

この仕組み・・・アクティブタグ(ActiveRFID)を採用することで、言語(お国)別とか年代別等、細かなカテゴリに対応した、すなわち個々のお客さまにフレンドリーな運用が容易に可能となります。

今後、博物館・資料館など展示施設において、構造的なバリアフリーと合わせ、このような展示支援システムの普及が進むものと思われまます。